

食と栄養のコミュニケーション [ボタラヴィ]

Bota la Vie

Contents

Topics

希望につながる治療法を知る
第28回統合療法コンベンション

BOTALABO PRODUCT

“毎日の湯治で健やかな睡眠を”
ゆーみんTERA - 癒眠 -

食べて免疫UP♪

「風邪予防の料理」

1 月号
2023 Jan.

希望につながる治療法を知る 第28回統合療法コンベンション

がん治療に対して、まだまだ偏った考えを持つ人は少なくありません。統合療法コンベンションは、がんには様々な治療法があり、1人でも多くの方に希望を持っていただきたいとの思いから、毎年開催しています。今回は11月19日・20日の2日間に渡って行われたコンベンションの内容をお届けいたします。

がん治療の名医たち

長年に渡って開催された統合療法コンベンションが今回で第28回目を迎えました。今回の見所はがん治療はもちろん、現代の精神医療の問題点や、死生学の観点で「死」をどう捉えるかなどにも迫った点です。

まず1日目のトップバッターを務めたのは帯津良一医師。61年間の医療経験から、長年追究してきたホリスティック医学の終局として「全ての人が生と死を統合して、あの世に行くことをサポートしていくのがホリスティック医学」と提唱しました。老化と死をきちんと受け入れ、尚且つ楽しみながら生と死の統合を目指すといった、身体だけの治療でなく、こころの治療も目的としています。

続いては、Hope 4 Cancerの創設者兼院長であるアントニオ・ヒメネス医師。「がん細胞は賢いからこそ、しっかりと治療をする必要がある」と

警鐘をならしました。また「賢いがん細胞は複数の変異体を持つているため、それぞれを抑えることが大事として様々な角度からの、がん治療の数々を紹介しました。

また、注目したいのが「口内細菌の検査」です。アントニオ先生は口内細菌を調べることによって体内の健康状態が分かること明らかにしました。

初登壇の赤木純児医師は実際の治療例を紹介。近年は、低容量化学療法と、他の治療法と併用して有効性を高める方法を取り入れています。例えば、がん細胞の動きを阻害する免疫チェックポイント阻害剤のオプジーブやヤーポイとの併用はじめ、有効率を上げる水素ガスに光がん免疫療法を併用し、さらに高濃度ビタミンC療法、CTC検査を加えた治療法などを採用しています。

特に「オプジーブ」は「全てのがんに効く。投与をやめても数年以上有効で再発が少ない」と述べています。

マーケティングの真実

赤木先生と同じく初登壇の米田倫康先生は精神医学の場で起きている人権侵害の問題に取り組んでいます。米田先生は平成10年以降に増えた新型抗うつ薬により、必要のない薬の投与を余儀なくされている人が多いことに問題提起をされてきました。これは新型抗うつ薬に対しての壁を低くするマーケティングが原因だとし、その結果、薬を摂取し副作用を引き起こすリスクがあると強調しています。

1日目の最後は新井圭輔医師です。自身の経験から「健康には1日1食が有効」と開口し、そこから糖尿病の合併症について言及しました。糖尿病合併症は高血糖によるものではなく、高インスリン治療による薬害であると、実際の治療成果に基づいた持論を展開しました。

希望を持たせる治療法

2日目のトップを切ったのはこちらも初登壇の加藤直哉医師です。加藤医師はがん治療だけでなく死を科学として研究し博士号を取得している「死生学」にも取り組んでいます。がん治療についてはミトコンドリアが働かなければがんの治療は難しいとし、その重要性を訴えました。またがん患者の3割は栄養不良の状態で、たんぱく質をとる、砂糖を減らすことが大切だと訴えました。

そして「死生学」では臨死体験により死への恐怖が減ったとの研究結果を引き合いにし、希望を持たせる講演内容となりました。

続いてはNPO法人がんコントロール協会の理事長である森山晃嗣です。今回の講演では食事はもちろん、マインドについても触れました。治療を行っていく上で目的・目標を明確にすること、マイナスの感情を誰かに受け取ってもらう等、マインドの大

切さも指摘しました。

ハイパーサーミア(温熱治療)を中心にごん治療に取り組んでいるのは、こちらも初登壇の中村仁信医師です。中村先生は抗がん剤と温熱を併用することによって薬剤の効果が上がり、症状を抑え再発も少ないという持論を述べました。またがん治療に低線量放射線が効果的であることにも言及。酸化作用のある体内酵素の活性化に効果的と見解を述べました。

危険なメチル水銀と鉄不足

続いては、コンベンションではお馴染みの先生です。メチル水銀の危険性について語ったのは秋山真一郎医師です。メチル水銀は、体内に入ると免疫力の低下、水俣病・パーキンソン病・認知病・発達障害と様々な病気の原因になると述べています。その為、重金属を除くデトックスが重要だと語りました。

コンベンションのトリを飾るのは宗田哲男医師です。産婦人科

の観点から妊娠糖尿病の患者に

対して、糖質過多の食事を提供している病院への懸念を示しました。

また鉄不足に対して日本は無策であり、鉄不足のままでは母親が産後うつを招く可能性があるという見解を述べました。

今回も様々な治療法や新たな知見、講師陣の熱意に心を動かされた人たちは多かったのではないのでしょうか？

統合療法コンベンションが見放題

がんコントロール協会へご入会頂くと、本誌だけではお伝えできていない講演内容が何度でもご覧頂けます。過去に開催された統合療法コンベンション約85講演の動画がいつでもご覧いただけます。見逃してしまった方、もう一度見たい方は、ぜひご入会ください！

入会はこちら

PCから
npo-gancon.jp



スマホから



vol. 33

食事、栄養、温熱で「がん」を抑え、 良好な健康状態を継続中！

北海道に住む50代の女性Mさんは、6年前に乳がんを発症し、徹底した食事と栄養療法で状態の改善をめざします。しかし発症から1年後に骨転移がわかり、Mさんは立ち止まります。体に負担が伴う治療より、厳しい食生活と徹底した栄養療法を選んだMさん。果たして希望の光りは、みえたのでしょうか？

乳がんを発症して以来、Mさんが取り組んできた栄養療法は、傍目にも厳しいものでした。食事は炭水化物や塩分は小さい無し。野菜中心のメニューで、良質の油を欠かさず、不足しがちなビタミンB、Eや必要な栄養素はボタ

ラボ製品で毎日補充、コーヒー浣腸を1日2回という徹底ぶりでした。

実際、栄養療法を続けた効果はてきめんで、Mさんは「最初の3ヶ月で5〜6キロ体重が減り、体の調子が良い状態を実感できた」と語っています。

それだけに、1年後に骨転移がわかったときには、本人はもちろん、Mさんを栄養面から見守り、指導してきた森山先生ですら「信じられない」と口にしたほどです。

がん治療は、人によって様々です。医学的にも抗がん剤が効く人もいれば、効かない人もいます。本人の健康状態や生活習慣、ストレスや心労なども微妙に影響します。

「何が足りなかったのかしら？」検査結果にしばらく立ち止まっていたMさ

んは、自分の取り組みを振り返ります。それまでどちらといえば食事と栄養に重きを置いてきましたが、ふと主治医に勧められた「ホルモン治療」を受けてみようと考えます。

一方で、体をあたためる「温熱」にも取り組みはじめます。それまで1日3回だった食事の回数を1日1食に減らします。メニューは、生野菜、納豆、白身魚、ナッツ、果物、大豆ヨーグルトなど。糖質カット、塩分カットはこれまで通り続けながら、出汁にまでこだわり、かつおぶしと海苔、生姜などを使って味付けをするようにしました。

ホルモン治療を続けた結果、高い数値を示していた腫瘍マーカーが正常値に下がり始めます。半年後に行ったCT検査では「あまり変化がなかった」そうですが、「(転移が)広がっていないのは何より」と、Mさんは前向きに受けて止めています。骨転移はCTでは癌の活動性を判断できないので、Mさんの受け止め方は正解でした。

温熱を始めてから、Mさんの健康状態は以前にも増して良好な状態が続いています。2021年からは登山も始めました。仕事の合間に、1日7000〜8000歩歩くようにして、毎日体を動かしています。仕事も依然と変わりなく続けています。

今もがんが体の中にあるので気は抜けません。午前11時〜16時の間に食事をする以外は、基本的にファスティング(断食)を続ける生活です。心と体を良好な状態に保てるのは、様々な取り組みの成果です。Mさんによれば「少食、栄養、温熱、そして解毒が、現在の健康の源になっている」と口にします。仮に病気があったとしても、食事や栄養がきちんと管理できていればQOL(生活の質)は保てるのです。普段から是非、心がけたいものです。(完)



あきやましんいちろう
秋山 真一郎

医師・医学博士、カナダマギル大学臨床腫瘍学客員教授。NPO法人がんコントロール協会理事。がん免疫治療と植物栄養素を中心とした免疫栄養療法など、副作用のない多角的療法で成果を上げている。

2023
1

食べて免疫UP♪ 風邪予防の料理

Botalabo Resipe

美味しく食べてウィルスを予防しましょう。見た目も華やかでボリューム満点なので年末年始のおもてなしにもピッタリです♪

豚バラ肉のこんにやく巻き焼き

材料(2人分)

豚バラ薄切り肉……………6枚
白菜……………1枚
こんにやく……………1/2個
A (中濃ソース……………大さじ3
醤油……………大さじ2
天然ペプチドだし…大さじ1
鰹節……………適量)

作り方

- 1 こんにやくは茹でて半分に切る。
- 2 豚バラをサランラップの上に少し重なるように広げる→その上に白菜を乗せてこんにやくを巻く。
- 3 フライパンを熱して巻いた繋ぎ目から焼いて全体を焼く。
- 4 取り出したフライパンにAを入れ煮る。
- 5 3を3cmサイズに切り4のソースをかける。



根菜のカラフル炒め

材料(2人分)

さつまいも……………1個
かぶ……………2個
人参……………1/2本
大根……………5cm
角切りベーコン……………10cm
大根の葉……………適量
酒……………大さじ2
塩麹……………大さじ3
黒胡椒……………少々
ココナッツオイル
ナチュレオ……………大さじ2

作り方

- 1 さつまいも・人参・大根は2cmの半月切り、かぶは4等分に切る。
- 2 大根の葉は小口切りにする。
- 3 フライパンにナチュレオを熱し1の野菜を8割程度、火が通るまで炒める。
- 4 2cm角に切ったベーコンを炒めて酒を加え、野菜に火が通ったら大根の葉を加え黒胡椒と塩麹で味を整える。



今回のレシピで使用した **ボタラボ製品** はこちら



天然ペプチドだし
標準価格
3,600円(税込)



ココナッツオイル
ナチュレオ
標準価格 (912g)
2,592円(税込)



ボタラボファームの野菜
500円(税込) より



購入は
こちら